



特別展「アイノとアルヴァ 二人のアアルト」展関連
〈Web版〉こどものイベント

「人にやさしい形をデザインしよう！」

■公開期間：2021年8月6日～8月29日

■対象：だれでも

■公開場所：当館ウェブサイト(「こどもプログラム」ページ)

■概要

使いやすく、心地がよいことを大切にする「人にやさしい」工夫がアアルト作品の魅力であることを紹介しました。「人にやさしい」デザインについて考えて、アイデアをワークシートにスケッチしてもらいました。送っていただいたスケッチの写真は「こどもプログラム」ページに掲載しました。

■用意するもの

印刷したワークシート、筆記用具

■手順1 「人にやさしい」デザインとはどんなものか、アアルトの作品や設計図、スケッチから紹介する。

(例1)肺の病気がかった人が生活する「サナトリウム」では、照明が患者さんの目に直接当たらないようにしたり、ドアの持ち手が服に引っかからないようにしたり工夫している。また、穏やかに楽しく過ごせるように床や天井を明るい色にしたり、掃除しやすい素材を使ったりしている。

(例2)サナトリウムの患者さんのためにつくった「パイミオチェア」という椅子は、肌があたるところに冷たい金属ではなく、温かみのある木を使っている。患者さんの息がしやすいように背もたれの角度も工夫されている。

(例3)「ボルゲブリック・シリーズ」という波をモチーフにしたガラスのコップやお皿のデザインは、お年寄りや子どもが持ってもすべり落ちにくいように表面を凸凹の形にしている。

■手順2 人にやさしいデザインを考える。

「人にやさしい」ってどういうことだろう？どんな時に「人にやさしい」と感じるか、アアルト作品にある工夫をヒントに考える。まずは身の回りのものをよく見て、どんな風に工夫すればもっと「人にやさしい」形になるか考える。

■手順3 人にやさしい形をスケッチする。

「こうしたらもっと使いやすいかな」「こんなのがあったら便利かな」など、アイデアが出たらスケッチをする。正面だけでなく、上や横から見た形や何でできているか、どこがやさしいポイントなのかなどもかいてみる。

(右図のワークシート参照)



■まとめ

自分や周りの人たちにとってより使いやすく、心地よく暮らしていくために、身近にあるものを少し工夫してみるといいかもしれませんね。今回のプログラムが、みんなの暮らしを少し楽しくするヒントになったらアアルトさんたちも喜んでくれるのではないのでしょうか？

■作品介绍

みなさんの作品の写真を美術館まで送ってくれました。

小さい子どもが安心して使えるコップ、やさしい表情で元気をくれるロボット、金属でできたゴミを食べるロボット、「人にやさしい」工夫がいっぱい。形だけでなく、材料も工夫していますね。

